



ダイヤモンド
シティ
小美玉
見つける。
みがく。
光をあてる。

もっと小美玉を語りたくなるマガジン

2022年
December

12

広報

おみ
たま

第201号

contents

[特集] 茨城空港に想いを寄せて	2-7
わだい	8-9
TOPICS	10-13
四季の歌	15
4コマ小美玉暮らし	16

Special Feature



茨城空港に想いを寄せて



広報
おみたま
第201号

に想いを寄せて

再開やチャーター便の運航など、復活の兆しを見せている茨城空港。
施した新プロジェクトや長年継続してきた事業が実を結んでいます。
想いを寄せ続ける人々の想いに迫ります。



今月の表紙



「いってらっしゃい!楽しい旅を」。茨城空港から那覇に向かう飛行機を見送る、スカイマークスタッフの皆さんを撮影しました。茨城空港の国内線は、今年7月から全便が運航再開。少しずつ利用者も増え、コロナ禍以前の賑わいを取り戻しつつあります。

※クラウドファンディング
インターネットを介して不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達すること。

F-4 ファントム 再塗装 クラウドファンディング

応援しました!

色あせたファントムのことを残念に思っていたので、少しでも力になればと思い、クラウドファンディングに賛同しました。細かいところまで丁寧に再現されていて、見違えるほどにきれいになりました。

茨城空港サポーターズ
大内 利弘 さん



茨城空港ターミナルビルの隣にある航空広場には、退役した航空自衛隊機F-4(通称:ファントム)が展示されています。空港見学者や航空ファンの憩いの場として親しまれていますが、「経年による色あせが目立つ」という声が市民や多くの航空ファンから上がっていました。そんな声に応えようと、ファン

トムを在りし日の姿に戻すための再塗装プロジェクトが、小美玉市茨城空港利用促進協議会の呼びかけで実現。クラウドファンディング(※)による資金調達と塗装ボランティアの協力を得て、2022年4月に再塗装された機体がお披露目されました。



茨城空港

長期に渡るコロナ禍の影響を乗り越え、国内線の全便
コロナ禍でも動きを止めずに、市民が主体になり実
地域にとっての茨城空港の価値を考え、茨城空港に



茨城空港公園 イルミネーション

12月9日(金)～1月15日(日)

点灯時間 日没～21:30

会場 茨城空港公園 航空広場
小美玉市与沢1601-55

問い合わせ
商工観光課 空港係
☎0299-48-1111(内線1163)



航空ファンの喜ぶ声に 「やってよかった」

住宅塗装の技術で地域に還元したいという想いから、協会の会員7社で、ファントムの塗装ボランティアを買って出しました。構想から塗装までは足かけ3年。何度も色見本を作成し関係者からアドバイスをもらい、オリジナルカラーに近づけようと準備をしてきました。細かい装飾が多く、風が強い現場での塗装作業は大変でしたが、今年の春に無事お披露目できました。完成後はSNSなどを通じてたくさんの方の反響がありました。空港の「空の日」イベントで実施したファントム記念撮影会では、航空ファンの皆さんから「オリジナルがよみがえってうれしい」と感想を直接聞くことができ、私たちも「やってよかった」と達成感を感じています。



一般社団法人
日本住宅塗装協会 代表理事
岩上 征直 さん

クラウドファンディングが 空港のPRに

これまで、部会として航空広場を活用したイベントを数多く開催してきました。コロナ禍以降は別の方法で空港を盛り上げようと、ファントムのイルミネーションを企画するなど模索しました。ファントムの再塗装をするきっかけは、色あせを残念がる声が高まっていたこと。(一社)日本住宅塗装協会の協力を得て動き出しました。プロジェクトを通して茨城空港のPRにつなげたいという想いもあり、費用の一部をクラウドファンディングで募ることにしました。結果、多くの航空ファンの皆さんから支援が集まり、わずか8日間で目標額の670万円を達成。予想以上の反響のおかげで、ファントムを無事よみがえらせることができました。



小美玉市茨城空港利用促進協議会
賑わいづくり部会 部会長
高崎 直樹 さん



茨城空港 ゆめ未来芸術展

これまでの参加者数
累計1万6千人!

茨城空港の開港以前に始まり、今年で15回を迎える絵画コンクール「茨城空港ゆめ未来芸術展」。市内の小学生にとって夏休みに描く絵の課題として定着し、茨城空港のPRと芸術文化育成を担っています。子どもたちが茨城空港を通して描く絵には、未来の小美玉市という「ゆめ」が広がっています。

藤代審査員長・開港の前年に始まった「茨城空港ゆめ未来芸術展」は、今年で15回目を迎えました。当初の狙いは、子どもの絵画コンクールを通して家族ぐるみで空港に関心を持ってもらうことと、未来の芸術家を育成することでした。国内外の第一線で活躍するデザイナーが審査するという特別感もあって、回を重ねるごとに応募者数が増え、作品のレベルも上がっています。自由参加にもかかわらず、市の枠を超えて広範囲の学校から応募が集まるようになりました。

「これまでに参加した子どもたちが成長し、芸術やデザインを志す学生が出てきたことは大変素晴らしいことです。これからも子どもたちの才能を伸ばし、未来を担う子どもたちの夢を育てるために、世界に向けて発信できる国際的なコンクールを目指していきたいです。」

未来を担う子どもの才能を伸ばす



審査員
グラフィックデザイナー
左合ひとみさん



審査員長
グラフィックデザイナー
藤代 範雄さん



審査員
クリエイティブディレクター
青木 克憲さん



審査員
グラフィックデザイナー
新村 則人さん





第14回茨城空港ゆめ未来芸術展



第15回 茨城空港ゆめ未来芸術展

1月21日(土) - 2月上旬(予定)

詳しくはこちら



会場 茨城空港ターミナルビル
小美玉市与沢1601-55

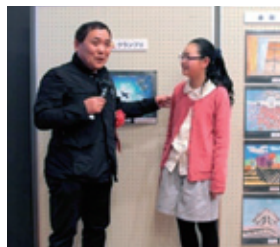
問い合わせ
商工観光課 空港係 ☎0299-48-1111(内線1163)

参加
しました



第8回グランプリ受賞
武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 3年
桑崎 真里亜 さん

グランプリを受賞した当時の桑崎さんと藤代審査員長。受賞作品は、沖縄の海をモチーフに「魚たちが海の中から飛行機を歓迎している」というコンセプトで描いた。



楽しく、真剣に取り組んだ「ゆめ未来」

小学6年生のとき、ゆめ未来芸術展のグランプリ(最優秀賞)をいただきました。当時のことはよく覚えていますが、表彰式の後、審査員長の藤代さんから声をかけられて、名刺をいただきました。小さい頃から絵を描くのが好きでしたが、「発想がいいね、デザインは楽しいよ!」と言われたことで、そこから美術の世界を本格的に意識し始めた気がします。

表彰式で、他の小学校の絵が好きなお子と出会えたこともうれしかったです。その後、みのあるのアートワーク

ショップで再会して一緒に絵を描いたりもしました。コンクールもワークショップも、手を抜くのが嫌で、時間をかけて描いていました。子ども時代にいろいろな体験させてくれる場があって、たくさん作品を楽しく描くことができ環境だったのはすごくありがたかったと思います。

現在は、美術大学でアートやデザインを学んでいます。昔から、喜んでくれる人のために描くのが好きなので、これからも作品の向こう側にいる人を意識した作品づくりをしていきたいです。



つくばエクスプレス 水戸・茨城空港延伸



TX水戸・茨城空港延伸促進協議会は、茨城空港を経由した水戸までの延伸実現を目標に設立され、水戸市・石岡市・かすみがうら市・鉾田市・小美玉市・茨城町の関係団体で構成されています。

延伸要望の署名を県に提出しました

8月24日、TX水戸・茨城空港延伸促進協議会として、水戸・茨城空港に向けたつくばエクスプレス(TX)延伸を要望する署名93,441人分(うち小美玉市は21,921人)を茨城県に提出しました。市内公共施設に設けた署名箱のほか、茨城空港や空のえき「そらら」での署名活動、市内外の事業所からの呼びかけなどを通して多くの署名が集まりました。ご協力いただき、ありがとうございます。

延伸したらどんなまち？ 市民の想いやイメージを聞きました

現在、茨城県がTXの県内延伸について、茨城空港・水戸・筑波山・土浦の4方面案を県総合計画に位置付け、今年度中に延伸方面の一本化を図っています。それを受け、市も茨城空港を経由した水戸までの延伸実現を目標に取り組んでいます。

12月4日(日)には、空のえき「そらら」内で「オープンハウス」を開催しました。TXに関するパネル展示や延伸後の未来を考えるワークを行い、訪れた皆さんに延伸に対する想いや将来のイメージなどを伺いました。



7月23日から30日にかけて、市茨城空港利用促進協議会が主体となり茨城空港ターミナルビル内で署名活動を行いました。

問い合わせ

企画調整課 TX茨城空港戦略室
☎0299-48-1111(内線1236・1232)



署名活動の反響に 期待の高さを感じました

空港で行われたTX延伸の署名活動に参加し、空港利用者に署名を呼びかけました。夏休み期間だったため、子ども連れて旅行に出かけるという県外や県北の方が多かったです。皆さん、署名を呼びかけると快く協力してくれて、期待の高さを感じました。子どもや孫の世代が夢や希望を持てるまちにするためには、延伸後を見据えた都市計画が必要です。地域に根ざした建築家として、これからも地域の将来を考えていきたいと思えます。

禾設計事務所 代表
貝塚 勇 さん

禾設計事務所 営業
菊地 方美 さん



茨城空港の可能性

「空港があるまち」の強みを生かす

茨城空港はコンパクトゆえに利便性が高い、ポテンシャルのある空港だと思えます。市の強みの一つは、そんな「空の玄関」が所在していることです。特にコロナ禍以前はインバウンド需要を追い風に、年間77万人の利用者が行き交っていました。平時時でも多くの人が市を訪れることは他のまちにはない大きな強みです。

もう一つの強みは、農業や工業に適した「広大な土地」があり、そういった産業を育成しやすいことです。コロナ禍で大きな打撃を受けた観光産業は、社会情勢に左右されやすい業種です。一方で、市内で盛んな農業・工業は需要がなくなることはなく、地味かもしれませんが安定して強い産業です。



小美玉市
まちづくり構想推進委員会
委員長

川島 佑介 さん

茨城大学人文社会科学部准教授

「空の玄関」と「広大な土地」という2つの強みをかけ合わせて、小美玉市をより元気で魅力のあるまちにすることが求められています。これからは、空港が近い立地を活用して付加価値の高い品を国内外に出すことで、強みを活かせるのではないのでしょうか。

多様な立場の市民の声を聞く

まちづくり構想のように大きな方針を決める際は、多様な立場の人の声を拾い上げることが大切です。なぜなら、市民はそれぞれに別の専門性があり、自分の専門と違う分野の人たちの考えや求めることを知らないからです。農業、工業、サービス業などに専門特化した多様な人々にそれぞれの考えやできることを聞き、お互いへの理解を深めていくことが必要です。

公共交通はみんなの財産

TX延伸の機運については、まずは今ある公共交通を使うことが重要だと考えます。公共交通は需要がなくなれば消えてしまう「みんなの財産」です。それを肝に銘じて、一人ひとりが日常的に使っていきましょ。

市民を巻き込んだ意見交換を

「子や孫が住み続けたいまちにしたい」という想いから、会としてTX茨城空港延伸の応援に取り組んでいます。のぼりやステッカー、ノベルティなどを制作して、会員の事業所でPRしています。今年は市茨城空港利用促進協議会が空港で行った署名活動にも会員が参加。一般の方の反応も良く、「TXがなくなったら便利」という声を多く聞きました。今後は市TX茨城空港戦略室とも連携したいです。空港ができる

前は「空港なんて無理」という意見が大半でしたが、関係者の地道な取り組みで開港に至りました。TX延伸も、多くの人が議論に参加できるような市民を巻き込んでいくことが大切だと思います。

茨城空港が首都圏第3の空港として開港し、13年目となりました。交通や地域活性化の拠点として、まだまだ大きな可能性を秘めていると感じます。その恩恵が地域に返ってくるよう、茨城空港の魅力をより引き出していきたいです。近年はコロナ禍により当協議会の活動を自粛してきましたが、今年度はTX茨城空港延伸を求める署名活動を空港内で展開し、空港公園でのイベント開催も再開するなど、微力

茨城空港の魅力を引き出す

ながら空港の賑わいづくりに貢献しています。延伸の実現には、地域住民の延伸を熱望する声の後押しになるのではないかと考えます。今後も茨城空港の優位性をアピールし、積極的に活動していきます。



New Future Club
会長

山西 弘一郎 さん



小美玉市
茨城空港利用促進協議会
会長

荒川 一秀 さん